

病気や治療に関する
疑問・質問に
かかりつけ医の先生が
お答えします。



教えて!

肺炎球菌 ワクチン

Q

今年65歳になりますが、特にこれといった持病はありません。それでも肺炎球菌ワクチンの接種は受けたほうがよいものなのでしょうか。

A

肺炎による年間死者数は12万5千人で、死因の第3位です。そして、肺炎による死亡者のうち95%は65歳以上の高齢者です。一般的に高齢者は加齢や持病の影響により「肺を感染から守る機能」が低下しています。高齢者の肺炎予防のためには、持病の治療・管理や健康的な生活を送ることで免疫機能を低下させないこと、口の衛生状態を良くすることなどに加え、肺炎球菌ワクチン接種があります。肺炎の原因のおよそ1/3は、この『肺炎球菌』によるものです。この菌による肺炎は、時に重症化して命にかかわることがあります。ワクチン接種により、肺炎の発症率や死亡率を低下させ、重症化を防いだりすることがわかっています。肺炎球菌ワクチン接種が勧められているのは、①65歳以上の方②慢性呼吸器疾患の方③糖尿病の方④養護老人ホームや長期療養施設などに入居されている方⑤慢性心不全の方⑥慢性肝疾患の方⑦免疫抑制療法のため感染症にかかりやすい方⑧脾機能不全のある方。該当する方には「肺炎球菌ワクチン」の接種をおすすめします。まずはお電話で最寄りの呼吸器内科、内科などにご確認ください。



大手町いまながクリニック 北九州市小倉北区大手町13-34/ハローパーク大手町203 ☎ 093 (562) 2580 院長 今永知俊 先生



尿検査で わかること

Q

人間ドックでも職場で受ける健康診断でも検査項目の中に必ず尿検査が入っていますが、尿検査でどんなことがわかるのでしょうか？

A

一般的に尿検査は専用の試験紙を使い、尿によって試験紙の色が変化することにより、身体の様々な情報を得ることができます。尿検査の主な項目としては、尿たんぱくと尿潜血があります。尿にたんぱくが混じるということは腎臓に何らかの障害が起きていることを示します。尿にたんぱくが混じる原因はいろいろありますが、尿たんぱくが続く病気として代表的なのは慢性腎炎や糖尿病性腎症、尿路感染症、膀胱炎などがあります。尿にたんぱくが混じる状態を放置すると腎臓の機能が徐々に低下し、最終的に人工透析が必要になる可能性があります。一方、尿潜血は、尿に血液が混じっているかを確認します。尿に血液が混じる代表的な病気として、慢性腎炎や尿路結石、悪性腫瘍などがあります。尿は腎臓で作られ、尿管、膀胱、尿道を通して体外に排出されます。これらのどの部位から出血しても、尿潜血は陽性反応を示します。尿検査において、陽性という結果の場合は放置することなく必ず医療機関で再検査や精密検査を受けてください。またはかかりつけ医の先生にご相談ください。



加生医院 北九州市小倉北区黒住町24-8 ☎ 093 (921) 5842 院長 加生 忠洋 先生

